

令和3年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞

地域の絆でつくる笑顔あふれる 安心の故郷づくり

山口県山口市 特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイ

山口市阿東地域は、山口県の北東部島根県との県境に位置する約290km²の面積を有し山あいに囲まれた自然豊かな地域です。

阿東地域の人口は約5000人、近年人口減少が進む中、高齢化率は50%を超えており、高齢者の一人暮らしや高齢者夫婦世帯の割合も高くなっています。

この阿東地域の中ほどに位置する地福地域では、地域交流拠点ほほえみの郷トイトイを中心に、住民主体による地域課題解決の取り組みが行われており、人口減少に対応した地域の仕組みづくりを進めています。

私たちの取り組みは、平成22年2月に地域内唯一のスーパーが撤退したことをきっかけに、高齢者を中心に買い物環境への不安が高まったことからスタートしました。

当初は、地元の地福地域づくり協議会が中心となり、新たに新店してくれるスーパーを探しましたがなかなか見つからず、約1年半が経過するなか、地域の将来に対しての不安は大きくなっていき、地域にはあきらめにも似た空気が漂い始めていました。

この地域の不安を安心に変え、未来に希望をつなぐために、平成23年12月「地域の絆でつくる笑顔あふれる安心の故郷づくり」をキャッチフレーズにした地域の将来構想「地福ほほえみの郷構想」を提案し、地域拠点を核とした住民主体の地域課題解決の仕組みづくりを推進するため、特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイの前身である地福ほほえみの郷運営協議会を設立しました。

平成24年1月から2月にかけて、撤退した



健康に年を重ねるための介護予防事業「いきいき広場」



スーパーの建物を活用して地域拠点を開設するため地域に外向き趣旨を説明することで、地域内に将来ビジョンの共有を図り拠点開設のための寄付を呼び掛けました。

地域内21の自治会に外向いた説明会では、賛否両論様々な意見がありました。地域の将来を描くうえで住民主体の取り組みが必要なことや地域拠点を核にコミュニティを作り直すことが将来の安心につながることを、丁寧で説明することで共感を得ることができ、約600世帯から1口20000円の開設支援金が集まりました。

また、スーパーの撤退した空き店舗を活用し地域拠点として再生するために、地元の中学生から高齢者まで多くの方がボランティアで作業に協力してくれました。

これらのプロセスを通じて、地域住民の多くが地域拠点の立ち上げに関わったことが住民の意識改革につながりました。

そして平成24年3月31日、ミニスーパーと交流スペースを併設した地域拠点ほほえみの郷トイトイは生まれたのです。

地域の中にコミュニティをつなぐ拠点ができたことで、地域ニーズや課題を集約する仕組みがつけられ、それをもとに活動を展開してきました。主な取り組みとして、見守りとしての役割もある地域に安心をお届けする移動販売事業、地元女性が主体的に立ち上げた



地元女性が主体的に立ち上げた惣菜加工グループ「トイトイ工房」

惣菜加工グループ「トイトイ工房」、産直野菜の出荷のしくみづくり、健康に年を重ねるための介護予防事業、高齢者と子どもたちの笑顔がつながる地域食堂の開設などがあります。が、全ての取り組みは「地域に笑顔を増やす」という理念のもとに実施されています。

特に山間部に点在する高齢者と小さな拠点であるほほえみの郷トイトイをつなぐことを目的に、平成25年から運行している移動販売車は買い物のお供を提供するだけでなく、地域に笑顔と安心をお届けするとともに地域ニーズを丁寧に聴きとる重要な役割を果たしています。

一般的に農村地域での移動販売事業は、ニ

ズは高いが採算性が低く事業として成り立ちにくいといわれていますが、ほほえみの郷トイトイでは様々な工夫で移動販売事業の黒字化を実現しています。

その一つが、地域のお母さんたちが活躍するトイトイ工房のお惣菜です。地元の野菜などをなるべく使い、優しい味付けや一人暮らしの高齢者にもちょうど良いサイズのお惣菜は人気商品として移動販売を支え高齢者の食を守っています。

また、移動販売事業は単なる買い物支援ではなく、小さな拠点と地域の人々をつなぐツールとしてとらえ2年前からスタッフを二人態勢にし、コミュニケーションを重視し商品を売りに行くのではなく、地域の人に会いに行くというスタイルを徹底したことで持続可能なソーシャルビジネスとして確立しています。

さらに移動販売事業には売上による利益だけではなく、地域の声を聴くという重要な役割があります。小さな拠点を核とした地域課題解決を事業として展開するうえで重要なマーケティングとなっています。

このように地域ニーズを的確にとらえることで、地域の情報を集約し課題を整理することで課題解決を新たな事業として展開してきました。

昨年のGW期間中に取り組んだオンライン帰省の取り組みも、コロナ感染が全国に拡大



平成 25 年から運行する移動販売車は、コミュニケーションを大切にしている

する中で地域の高齢者が感じている不安をくみ取り笑顔にしてあげたいとの思いで、迅速実施することになりました。

コロナの影響で新たな生活様式が求められ、人と会うことが制限されている状況の中、オンラインツールで人と人をつなぐことで新たな可能性が広がると感じています。

コロナにより社会の価値観に変化がみられる中、田園回帰によるUターン・Iターンが今後増加する可能性が高まっています。

しかしながら地域にとっては、ただ単に移住者により人口が増えれば良いというものではありません。地域で暮らす人々が守り育ててきた風土やコミュニティを理解しそこに魅

力を感じ地域の仲間としての移住者を期待しています。

特に人口減少の進む地域においては、地域の担い手の確保が課題でありコロナにより都市部から地方への移住に関心の高まっている今こそ、地方にとってはチャンスなのかもしれません。

この機会を生かすために、人口は密で人とのつながりが希薄な都市部と、人口は疎だがコミュニティが形成され人とのつながりがある地方、都市部に追随するのではなく都市部との違いを明確にすることでコロナ時代における地方の価値を発信することが必要だと考え、魅力ある地域づくりに取り組んでいます。



地域にあった移動の仕組みを作る

住み慣れた地域で誰もが安心して暮らし続けるために、アフターコロナの社会においても、これまでとは違う形でコミュニティを維持することが必要であり、今こそ人と適度な距離を取りながらも心の距離が近くに感じられるような優しさ溢れる新たなコミュニティづくりに取り組む良い機会ではないかと感じています。

これからの時代、人口減少に対応した持続可能な地域運営を進めるために、進化したテクノロジーも活用しながらもより「人の幸せ」を真ん中に置いたうえで将来ビジョンを明確にすることで、地域住民一人一人が輝くための地域マネジメントを実践していくことが必要だと考えています。

ほほえみの郷トイトイという小さな拠点は、地域内の人、資源、想いをつなぐとともに地域が守り育ててきた伝統・歴史とこれから描かれる地域の未来をつないでいくとともに、地域の核となつて小さな力を紡ぎ合わせることで地域に安心と笑顔のコミュニティを創造し、地域の未来に新たな可能性と希望をもたらしてくれる存在として、これからも地域のみなさんとともに人口減少に対応した持続可能なコミュニティづくりに取り組んでいきたいと考えています。

(特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイ

事務局長 高田新一郎)